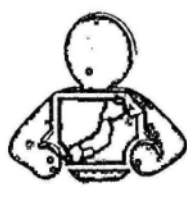
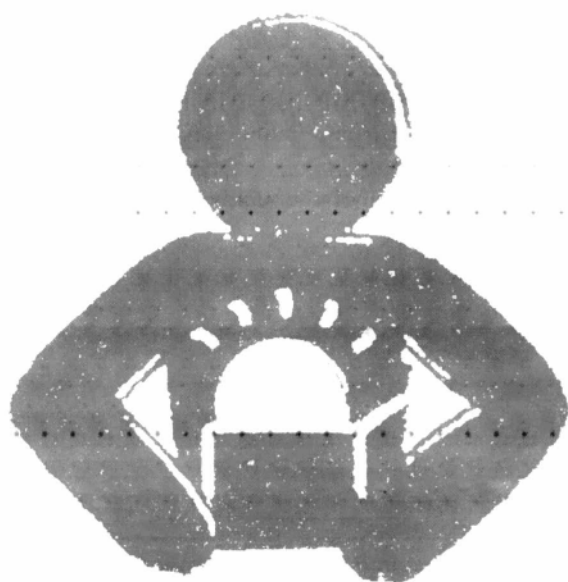


教材開発



教材開発

国際交流基金 著



国際交流基金 日本語教授法シリーズ

【全14巻】



第1巻「日本語教師の役割／コースデザイン」



第2巻「音声を教える」[CD-ROM付]



第3巻「文字・語彙を教える」



第4巻「文法を教える」



第5巻「聞くことを教える」[音声ダウンロード]



第6巻「話すことを教える」



第7巻「読むことを教える」



第8巻「書くことを教える」



第9巻「初級を教える」



第10巻「中・上級を教える」



第11巻「日本事情・日本文化を教える」



第12巻「学習を評価する」



第13巻「教え方を改善する」



第14巻「教材開発」

■はじめに

国際交流基金日本語国際センター（以下「センター」）では1989年の開設以来、海外の日本語教師のためにさまざまな研修を行ってきました。1992年には、その研修用教材として『外国人教師のための日本語教授法』を作成し、主に「海外日本語教師長期研修」の教授法の授業で使用してきました。しかし、時代の流れとともに、各国の日本語教育の状況が変化し、一方、日本語教授法に関する研究も発展したため、センターの研修の形や内容もさまざまに変化してきました。

そこで、現在センターの研修で行われている教授法授業の内容を新たにまとめ直し、今後の研修に役立て、また広く国内外の日本語教育関係のみなさまにも利用していただけるように、この教授法シリーズを出版することにしました。この教材の主な対象は、海外で日本語教育を行っている日本語を母語としない日本語教師ですが、広くそのほかの日本語教育関係者や、改めて日本語教授法を独りで学習する方々にも役立てていただけるものと考えます。また、現在教師をしている方々を対象としていますが、日本語教育経験の浅い先生からベテランの先生まで、できるだけ多くのみなさまに利用していただけるよう工夫しました。なお、漢字表記に関しては、原則として日本語能力試験2級レベル以上のものにルビをつけました。内容によって省いたり、3、4級の漢字にルビをつけているものもあります。

■この教授法シリーズの目的

このシリーズでは、日本語を教えるための必要な基礎的知識を紹介するだけでなく、実際の教室で、その知識がどう生かせるのかを考えてもらうことを目的としています。

国際交流基金日本語国際センターでは、教師の基本的な姿勢として、特に次の能力を育てることを目的として研修を行ってきました。その方針はこのシリーズの中でも基本的な考え方となっています。

1) 自分で考える力を養う

理論や知識を受身的に身に付けるのではなく、自分で考え、理解して吸収する力を身に付けることを目的とします。

2) 客観性、柔軟性を養う

自分のこれまでの方法、考え方にとらわれず、ほかの教師の意見や方法を知り、客観的に理解し、時には柔軟に受け入れることのできる教師を育てることをめざします。

3) 現実を見つめる視点を養う

つねに現状や与えられた環境、自分の特性や能力を客観的に正確に把握し、自分の場に合った適切な方法を見つける姿勢を育てることをめざします。

4) 将来的にも自ら成長できる姿勢を養う

研修終了後もつねに自分自身で課題を見つけ、成長しつづける自己研修型の教師を育てることをめざします。

■この教授法シリーズの構成

このシリーズは、テーマごとに独立した巻になっています。どの巻からでも学習を始めることができます。各巻のテーマと概要は以下の通りです。

- | | | | |
|------|------------------|---|-------------------------------------|
| 第1巻 | 日本語教師の役割／コースデザイン | } | 日本語を教えるうえでの全体的な問題をとりあげます。 |
| 第2巻 | 音声を教える | | |
| 第3巻 | 文字・語彙を教える | } | 各項目に関する基礎的な知識の整理をし、具体的な教え方について考えます。 |
| 第4巻 | 文法を教える | | |
| 第5巻 | 聞くことを教える | | |
| 第6巻 | 話すことを教える | | |
| 第7巻 | 読むことを教える | | |
| 第8巻 | 書くことを教える | | |
| 第9巻 | 初級を教える | } | 各レベルの教え方について、総合的に考えます。 |
| 第10巻 | 中・上級を教える | | |
| 第11巻 | 日本事情・日本文化を教える | | |
| 第12巻 | 学習を評価する | | |
| 第13巻 | 教え方を改善する | | |
| 第14巻 | 教材開発 | | |

■この巻の目的

教材作成と言ったとき、教師個人が「授業で学習者に配布するプリント」や、「教室で補助的に使う教材や教具」などを作ることを思い浮かべる人も多いでしょう。しかし、この巻は、「あるコースや科目の教科書として使用する教材」や、「国の定めたシラバスやスタンダードに基づいて作成する教材」など、「もう少しまとまりがあり、特定の教育現場で、中長期的に使用される教材」の作成を支援します。出版を前提とした教材作成についてはほとんど触れません。将来的に出版したいと考えている人は、まず、特定の教育現場で使用される教材として作る方法を本書で学んでから、出版社に相談するといいいでしょう。

教材を作成するには、授業設計能力だけでなく、総合的な知識や幅広い能力を必要とします。ですから、この巻は、ほかの巻と比べて、内容的にむずかしい部分もあるでしょう。すべての課題に答えることよりも、この巻全体を通して、教材作成のプロセスを体験することが大切だと考えています。教材作成のプロセスを実際に体験することで、次の5つのことができるようになるでしょう。この5つが、本書の目的です。

- ①自分のコースについて、現状の課題を整理する。
- ②既存教材を客観的に分析できる。
- ③自分の言語学習に対する考えや、教授実践をとらえなおす。
- ④教師同士が、お互いの言語学習に対する考えや教授実践を共有する。
- ⑤教材作成の手順や方法を理解する。

この巻は、教材を作成したい方だけでなく、次のような目的を持った方にも参考にしていただきたいと考えています。それぞれの目的に応じて、「この巻の構成」の次の絵のところを重点的に読んでください。

日本語教師をしている、または、これから教師になりたいと考えていて、教材作成について知識を増やしたい人は、の絵の部分を読みましょう。自分が教えているコースの現状分析をして、コースを改善したい人は、の絵の部分を読みましょう。自分が使用している教材を分析して、何が足りないのかを明らかにして、授業を改善したい人は、の絵の部分を読みましょう。

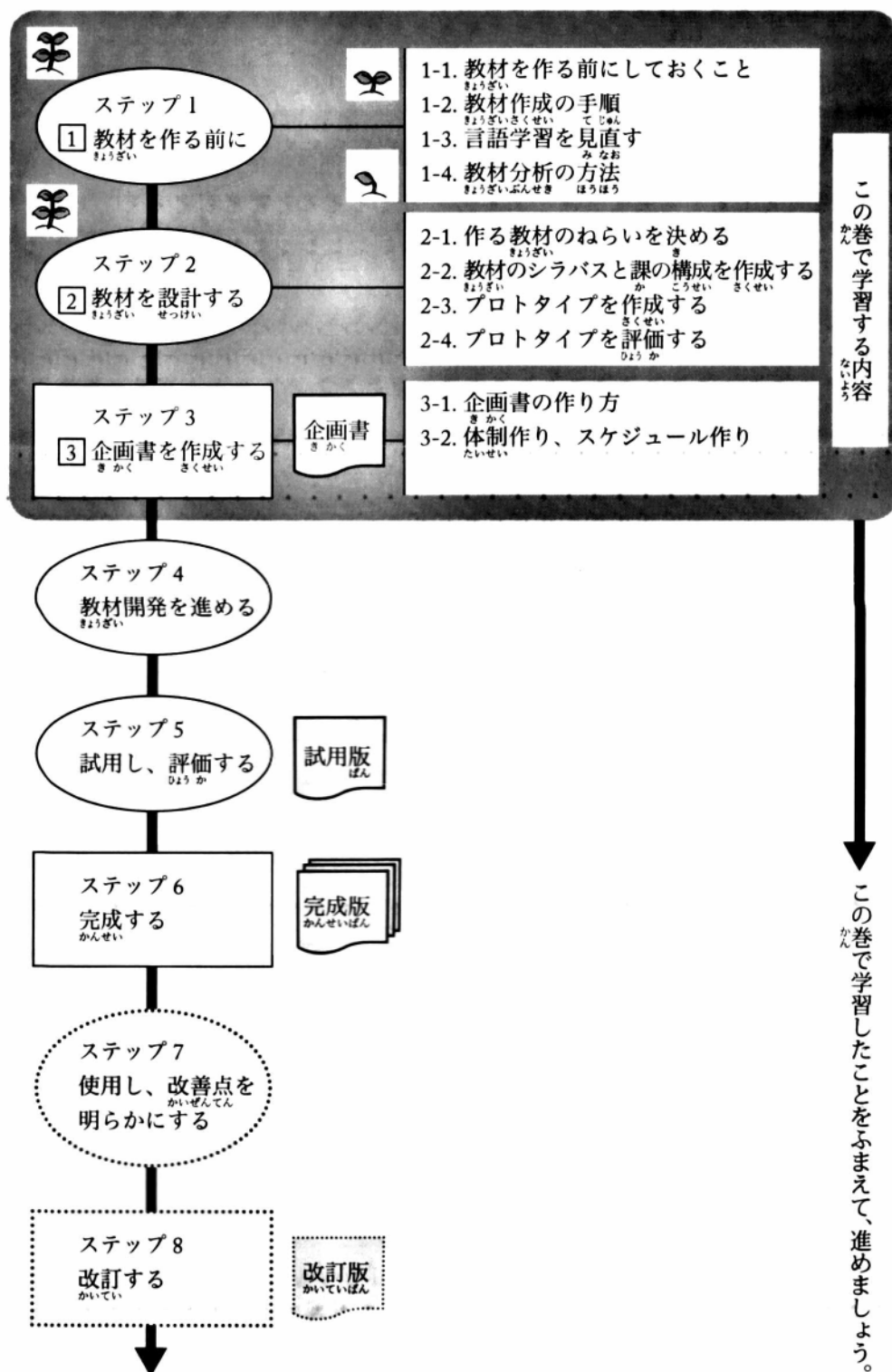
■この巻の構成

かん こうせい

1. 構成：教材作成のステップとこの巻で学習する内容

こうせい きょうざいさくせい

かん ないよう



2. 課題（【課題】）

か だい か だい

この巻の中の各課題は、次のような内容にわかれています。

かん かく か だい つぎ ないよう



考えましょう

活動や実践の意味を考える

かつどう じっせん い み

今までやってきたこと、さらに「やってみましょう」で挑戦したことの意味を、

ちようせん い み

理論的な背景と照らし合わせながら考えます。

り ろんてき はいけい て



やってみましょう

新しい方法を体験する

ほうほう

新しい学習・教授方法を体験したり、今までもやってきた学習・教授方法を、そ

きようじゅほうほう

きようじゅほうほう

の意味を考えながら、もう一度やってみたりします。



自分のプロジェクトでやってみましょう

学んだことを自分の教材作成プロジェクトに適用する

きようざいさくせい

てきよう

自分で作りたい教材がある場合は、学んだ方法を自分の教材作成プロジェクトに

きようざい

ほうほう

きようざいさくせい

適用してみて、理解を深めます。

てきよう

り かい ふか

